

あった。この視察で学んだことを今後の議会活動に活かしていきたい。

産業建設常任委員会

委員長 大崎 公孝

○島根県雲南市

雲南市は平成16年に6町が合併し島根県では唯一の新たな市政執行によって誕生した人口約4万2千人の町である。面積は553km²で林野面積が約80%に及び典型的な中山間地域である。

従来は森林組合や林業事業者を中心に森林整備が進められていたものの、雪害による倒木や間伐による「林地残材」が多く放置され災害時の被害拡大が懸念される状況にあった。そこでエネルギーの地産地消や森林の整備促進、地域密着型林業の活性化、市民参加による里山再生など森林資源の有効活用を目的に、森林バイオマス事業に取り組むこととしたものである。

雲南市では森林バイオマスエネルギーを熱エネ

ルギーとして活用することを目的に、公共施設へのチップボイラーの設置や民間企業による合同会社が森林バイオマス収集から熱提供を一体的に運営している。特筆すべきは一般市民が軽トラックで山に入り林地残材など資源を収集、対価として原材料費2千円/1tプラス地域通貨4千円/1t合計6千円を受け取っている点である。地域通貨は公施設や市内の商店などで利用でき地域内での経済循環を創出している。



いるとは言えず課題を抱えている。林業振興は自伐林家の育成など底辺の拡大が何より重要である。山元土場の整備は計画しているもの、残余の土地の活用を考えるととき木質バイオマスエネルギーへの取組みは一考の価値はあるのではないか。北山には風力発電、民家には太陽光発電の補助などクリーンエネルギーへの取組みは3・11東日本大震災以降、今や時代の要請とも言えよう。バイオマスエネルギーを熱エネルギーとして活用するのか、電力エネルギーとして活用するのか、なお一層の調査研究が必要である。

